

山城中

淨家寺鑑

藁

庫	文	開	内
一九二函	一	三四八七四	和書類
一架	二冊	號	

(二册)

206  
用

内閣文庫	
番號	和 34874
冊數	2 ( 2 )
函號	192 72



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



開205

淨家寺 鑑目錄

卷之七

金剛寺

百二十六

西光寺

百二十七

安養寺

百二十八

普長寺

百二十九

了蓮寺

百三十

常樂寺

百三十一

西林寺

百三十二

極樂寺

百三十三

光明寺

百三十四

西念寺

百三十五

寶苑寺

百三十六

法界寺

百三十七

寺名卷之七目錄

勝海寺	透玄寺	大雲院	青龍寺	大慈寺	淨心寺	梅名寺	明志寺
百五十二	百四十九	百四十七	百四十五	百四十四	百四十二	百四十一	百三十六
法然寺	智光寺	淨教寺	長壽寺	仲源寺	光德寺	西守寺	正覺寺
百五十二	百五十	百四十八	百四十六	又百四十四	百四十三	百四十一	百三十九

上德寺	常運院	長壽寺	大泉寺	中道寺	永養寺	宣世寺
百六十五	百六十三	百六十一	百五十九	百五十七	百五十五	百五十三
極樂寺	本覺寺	西念寺	大蓮寺	安養院	淨土寺	淨觀寺
百六十六	百六十四	百六十二	百六十	百五十八	百五十六	百五十四

卷之八

蓮光寺

百六十七

竹林院

百六十七

壽長寺

百六十八

延壽寺

百六十九

万年寺

百七十

常光院

百七十一

正妙院

百七十三

宗德寺

百七十四

法峯寺

百七十五

福田寺

百七十六

淨法堂

百七十七

蓮花寺

百七十八

河津院寺

百七十九

念佛寺

百八十

持正堂

百八十一

檀現寺

百八十二

寺求寺

百八十三

玉樹寺

百八十四

末受寺

百八十五

長德寺

百八十六

西照寺

百八十七

長壽寺

百八十八

長立院

百八十九

法堂寺

百九十

正法院

百九十一

西照寺

百九十一

瑞命院

百九十三

唱修寺

百九十四

成后院

百九十五

光林寺

百九十六

聖德寺

百九十七

光緣寺

百九十八

法善寺

百九十九

西房寺

二百

法雲寺	二百一	妙巖院	二百二
文雀寺	二百三	快春寺	二百四
休陽寺	二百五	欣澤寺	二百六
弓池院	二百七	淨源寺	二百八
誓弘寺	二百九	正運寺	二百十
普想寺	二百十一	滿福寺	二百十二
如來寺	二百十三	光明院	二百十四
妙泉寺	二百十五	三寶寺	二百十六
素運寺	二百十七		

百十六  
 御下寺守も也  
 金剛寺

一 西河邊天性寺の南隣  
 一 高寺の満米上人の生誕處の美蓮  
 一 乃とは是と云く之を釋教よまると人令  
 一 圓山寺の居之乃らと依中ら矢田の寺  
 一 高寺の池苑慈化乃美像なり釋教

いづくま上人比府にむく拙りよは法無  
了獄滅の熾爛に瘡くると下に未上人燃  
しほく下れとゆく拙とあむくは五  
の西よとほつく其名氏同は五穀とい  
くく我の乞比死善壽なりと未上人  
獄中比死の相と制く高寺安つて  
くく身は美像くくくく法入信  
作しを好む也あくは縁起し

一海陀新珠之なるは法像是なり是  
心乃作るなり  
一十王十経乃法像是なり是は小智堂  
乃作るなりは外美実乃作るなり  
是と略し

百七

仰本なるなり  
西光寺

西光寺  
西光寺

佛がまきまき日乃作

安養寺

西の門を過る福の南流

一箇寺は古の苑庭沈と号すと云ふ

息心若所妹安養の左年終て垣鐵をく

念仏秘傳一始より改めく書きたる寺と号

せりりらと南寺は中まきまき日乃作の所

作とく八家乃まきまきと云ふまきまき

也婦人は是の女人は生れたるは徳の長壽は

まきまきありて世奉りてくは美徳の女人

性生御本願はる像ありて徳作しを

り給ふまきまきと云ふは縁起しありまき

まきまきありて也

一若くは大師の所教像ありて即ち師乃

は自願あり是の

後後まきまきと云ふと成下まきまき也

一 勅額あり 安養寺とあり

後深草の院の震後あり

ひふ美之突ありと云ふ是と畏む

百九十九

河内三宮の兵衛の依長寺

西の河内安養寺は由緒

一 延喜大將軍家康之由寺あり院内

方一町是ありと云ふ是の宿ありと

在徳寺なる長寺の河内三宮の町あり

くはくはく大寺ありと云ふ天正十九年

交け西の河内三宮に中法是ありと云

地蔵ありと云ふ也

家康之由寺ありと云ふ天正年中

以前之事なりと云ふはくはくはく

是れはくはくはく石川依香寺あり

是ありと





一高寺の事其美像の縁起是を  
素禱しく交結する事なり也

百一  
所記の事其の作  
常樂寺

一高寺の事其美像の縁起是を  
素禱しく交結する事なり也  
相續上人の事其の縁起是を  
素禱しく交結する事なり也

一高寺の事其美像の縁起是を  
素禱しく交結する事なり也  
相續上人の事其の縁起是を  
素禱しく交結する事なり也

とるあし、善哉とつくとも、縁僧固結し  
く、文とゆふ、日付移り、く、曉天より  
ぬ、縁僧ゆふとん、敬と敬つ、是よりく  
不結と同果、く、移り、は、何、は、移り、は  
く、く、安とく、安、是よりく、く  
是と考へ、く、は、如、ま、化、度、の、す、あ、く、ま  
現、く、海、屋、く、移、く、あ、く、是、と、く、く、海、屋、  
と、果、敬、く、く、移、く、あ、く、

一、沐院、く、く、く、の、く、く、く、く、く、く、く、く、  
像、是、の、く、く、く、の、く、く、く、く、く、く、く、く、  
園、梨、海、屋、く、く、く、く、く、  
一、善、守、大、師、の、く、く、く、像、是、の、く、く、く、く、  
自、第、一、の、く、く、く、は、く、く、く、く、く、く、く、く、  
り、の、り、り

西本寺  
西本寺  
西本寺

法苑珠林卷之七十四

卷之七十四

一 亦云曰不孝者有之乃何德

一 尚寺之經月和尚乃開卷行乃要意

中之經記日あり奉誦くは法一

と云ふ也仰ふ言此賜云二善薩の息子の

取れり

一 法苑乃一孝徳是あり善人師の鬼

りり

一 法苑新編と云ふに極對の法經徳是

あり法苑新編也是を異日季春村家

海にりり也福引希うは美心なり

一 秋進仏乃孝徳是ありは首錫摩の死

りり

一 觀世音菩薩乃衣号是り

後伏見流乃衣号中あり

一 善守法苑中孝徳是あり二福天

と祖上人乃取作りり

法苑珠林

卷之七十四



持明院御願書

卷九

百廿四 師本寺安の法心院 日比 禱名寺

西八日家西寺の御願

一 法院新法心と申す仲好利發と云

繼せ給ふらば曼陀羅院あり下は八日法

一 法院ありと云ふ希まは美室なり

一 法院ありと云ふ菩薩運接乃法後像是

ありと云ふ心中心像なり法心院なり

乃美室と云ふなり

百廿八

師本寺心乃法作 日比 明真寺

西々日家法界の御願

百廿九

師本寺心中心法作 日比 正善寺

西々明真の御願

寺願書

百廿四

伊本多安河保乃地

日向

稱名寺

西八河前西宮人寺の御講

一 保院親勝が二宮と仲好姫刺殺と云

絶せ給ふより曼陀羅院あり下は八河院

一 好葉ありと傳ふ希まほ美室なり

一 保院まむ乃菩薩定橋乃所後像是

わらし是より心若傍初字治れ余宮院より

樹よりく聖龍新運とあり給ふより

く即傍初所持此麻子と云く平末流

空景氣と定橋乃神お紙末代前千流守

のくもくよ看ま給ふ所後像なり是は本

物まこ乃美室なり

一 九品淨土此曼陀羅是あり是は心

中は忠毎此是骨紙心く和菓一看若

具と云く一書一給ふも也は所美室所

一 浄心寺

百三十一

浄心寺 浄心寺

浄心寺

浄心寺 浄心寺

百三十二

浄心寺 浄心寺

浄心寺

浄心寺 浄心寺

浄心寺 浄心寺

上人の浄心也

一 浄心寺 浄心寺

浄心寺 浄心寺

浄心寺 浄心寺

浄心寺 浄心寺

百三十三

浄心寺 浄心寺

浄心寺

浄心寺 浄心寺



神皇正統記

卷之四

神代卷之四 大新寺

神代卷之四 大新寺

又百四

神代卷之四 大新寺

神代卷之四 大新寺

神代卷之四 大新寺

神代卷之四 大新寺

神代卷之四 大新寺

右之思乃高寺代之其美像也

百四十五

御本高寺縁之也

新慈院中事

高新寺

所之山之高屋流南其場子ふり

百四十六

御本高寺安河流乃作

同日

長寺

所之京極通河原下之町ふり

百四十七

御本高寺心乃作

新慈院中事

大雲院

所之同通妻長乃其南隣

一氣同寺十九乃其法也事在元元

一每年七月二日乃其法也七月二日乃其法也

和貞安息乃其法也乃其法也乃其法也

事あり法法わら法入冠系一法也

一高寺乃其法也乃其法也乃其法也

此寺之遺わらむとけ成し略とひるま也

百廿八

浄教寺

浄教寺

西の国無大雲流乃南隣

一系内寺十九ヶ所乃法一也事の右も此也

一苗寺は本名の平氏此名將小松内府堂

鹽公乃安延元あり平堂と名持伝堂なり

此寺と一急氏は系を中流是ありましくは美

此の経なりなりふしとを以て来五百年

来修り改めさふふ堂あり新の末禪

く堂法入堂と名也

一苗寺は元祖上人所立也下るまは此末の六ヶ

所乃法一りしけぬは至徳年中

小松院浄教寺と勅額成下るまは也此

勅額甲うし是あり

一え祖上人候内西院是あり上人所立也

舟橋は別後を世給ふ也

一上人世を世の時如來前して福徳念

佛一おんまはまはまは九條殿下湯

然る金の香爐は西坊とらまは是は是の威

湯者中ら美意りりまは是とまは海部一うん

と給一まはまはまはまはまはまはまはまは

まはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

の由まはまはまはまはまはまはまはまはまは

まはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

まはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

寺は美家まはまはまはまはまはまはまはまは

地まはまはまはまはまはまはまはまはまは

百四十九

所まはまはまはまはまはまはまはまはまは

透玄寺

西を河海渡中下江をまはまはまはまはまは

百五十一

御公多八幡の作

日記

聖光寺

所々河越遠き所の由縁

一 九条浄土乃重海乃曼陀羅是なり

百五十二

御公多尋の事也

初巻流石巻

勝者寺

所々河越遠き所の由縁

一 糸内寺十九ヶ寺の法也事ハ右巻也

一 苗寺は長下是なり

百五十三

御公多法苑上人の正教 法然寺

所々河越遠き所の由縁

一 糸内寺十九ヶ寺の法也事ハ右巻也

一 毎月廿四日の法念仏なり

人那来一終ふとも終ふ亦以能者氏也

宗法苑上人正教化よりさく





西河通法苑の北南條

百廿四

御書より作

淨光寺

西河通法苑の北南條

百廿五

御書より作 永養寺

西河通法苑の北南條

一糸肉十九ヶ条法苑の北南條

一法苑より西河通法苑の北南條

像見ありと西河通法苑の北南條

仏の形ありと西河通法苑の北南條

ありと西河通法苑の北南條

乃得意ありと西河通法苑の北南條

小形ありと西河通法苑の北南條

乃美室也是と西河通法苑の北南條

卷見ありと西河通法苑の北南條



一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり

一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり  
 一 法如上人 撰の 西教 是 あり 所上人 中 自  
 筆 たり

寺 記 卷 二

二 百 二

わがしやうのこゝろを共つてはかたじけなく  
清純なるこゝろをたもたひしるゝに  
比しやうのこゝろをたもたひしるゝに  
て曉天日なりぬれぬるはよき大物なり  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを

かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを  
かゝるゝと世にわがしやうのこゝろを

百五十七

沖道寺

あらかねのまに月半并魚抄宗元如く

百五十八

安徳院

あらかねのまに魚抄宗元如く

一海平卯月八日唐都丈人号宗開松

是わりのいふ像もあつたかしくいふ徳あり

系統くあまのりけいも徳と宗元

海をさる也

百五十九

沖本号のまに宗元寛所乃宗大泉寺

あらかねのまに魚抄宗元如く

一海平卯月八日唐都丈人号宗開松

是わりのいふ像もあつたかしくいふ徳あり

大さけ家池を里人綱と結ひ目と剋し

くふんは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ  
あつたは漢と下撰とれと可とわ

百六十  
御本寺の意多人の師乃匠作 大蓮寺

あつたは漢と下撰とれと可とわ

御本寺の意多人の師乃匠作 長生寺

あつたは漢と下撰とれと可とわ

あつたは漢と下撰とれと可とわ

一 西暦八月十七日 晴 甲子 辰 乃 宗憲 氏  
里 念 公 之 孫 法 有 之 孫 人 昭 美 之 孫 子  
之 孫 有 之 孫 子 昭 美 之 孫 子

一 西暦大將軍家康公乃以甲子年 昭美 氏  
也 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏  
律 定 及 之 号 也 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏  
寺 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏  
是 日 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

一 西暦 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

一 西暦 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏 昭美 氏

希まきの美宝ひらり

一 化舍利子是のり世多乃仏眼種子

是わりのしんがらをたの美宝ひらり是ハ中井

氏之和守妻女受戒乃名深登作母之信女

秀降し給ふま也又ま給くち和ま

公まら事ハ同和異人ひり

西念寺

百六十二

御中まの情乃の地

あるま系樹はま倉下ハ所余ま

一 高寺西念まハ江如作まハ里ハ情実

乃所高給七寺あるハ如母乃まハ用山

高給上人ハ夏中ハ高ク高クハ我と

高ハ我汝の寺ハ後給おんまあり高給

まけま高給まらけ高給まらけ高給

高まも高也

一 骨親高まハ人高美像あり是ハ明徳の

百六十三

百六十四

聖帝御極是のり月日累の正  
始より是よりく相人奉る所  
事少き此色也  
御前より是よりく相人奉る所  
事少き此色也  
御前より是よりく相人奉る所  
事少き此色也  
御前より是よりく相人奉る所  
事少き此色也

一 尚書御極是のり月日累の正  
始より是よりく相人奉る所  
事少き此色也  
御前より是よりく相人奉る所  
事少き此色也

一 尚書御極是のり月日累の正  
始より是よりく相人奉る所  
事少き此色也  
御前より是よりく相人奉る所  
事少き此色也

海陀乃之像  
後之給  
寺希  
之なり給ふるなり也

百廿四  
御本堂  
寺

一 高寺  
一 高寺

一 新  
一 新

御本堂  
寺

一 毎  
一 毎  
乃乃乃



一 素 内寺十九ヶ寺の法一也事の在る  
一 苗 寺の本寺より和列の由り郡八幡  
宮の所を殊りりしと云る候も未申是の  
つらく内本寺より出候一もり候と  
りり  
一 苗 寺の候候帝乃皇子殿左の位に  
あり乃鹽竈と稱せし給ひ其徳より  
く福有候事あり候と云る候と

法一後身なるは徳一と云れり  
と云ふ人なりと云ふ事あり候事  
大将軍家康公御女中より其如殿受  
戒し給ひくは徳と云ふ事あり候事  
左様と云ふ候事 云々と云ふ  
寺安山は殊領と云ふ大標の事あり  
是と云ふ候事 其事あり候事  
其事あり候事



世此人是は志もつと其は奥列に居る  
國に家なきは此の如く一國あるも  
と由は深遠に里人の心は遠くあり  
取は深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃

長之尺方寸其お好ましくなる事  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃  
深遠に志は遠く念は乃

新羅

三十一

寺新巻六  
三十一  
をりし婦人其がくは是よりわらく  
安海深く此の世をよはゆ波と情を  
らくと後さゆらうとえちあくるは  
とりの情を結へかおるも此の世を  
後よりなら彼情は申すと圍繞傷  
く奥列へゆり下りて安海深く  
はなりの別と教へみ道しはまも  
科を記しゆく道程りりゆくと

中そのまゝおは情しと難さな終て不  
識りふは事うかひ申さる終て一  
おはれは事終はわらうと結ひて  
現し給ひしから終てあらと難さ  
かりとさくく人をも一終にゆひ  
まらまらよらうとくもあつ名と  
負ふの罪とひおはれとあり是は  
凡と結しゆくも終て終てゆくと

系傳しんくけい若傳じやくと好こうままりりのあまああままりり  
けけ伝でん記きししとともものあまああままりりのあまああままりり也

六百六十一

少すなるなる聖せい徳とくのあまああままりり 竹ちく林りん院えん

西せいのあまああままりり 西せいのあまああままりり 西せいのあまああままりり

百六十八

竹ちく林りん院えんのあまああままりり 竹ちく林りん院えんのあまああままりり

西せいのあまああままりり 西せいのあまああままりり

一いのあまああままりり 一いのあまああままりり 一いのあまああままりり  
後のち展てん轉てんししくく 後のち展てん轉てんししくく 後のち展てん轉てんししくく  
ををららししめめるる也也 ををららししめめるる也也 ををららししめめるる也也

一いのあまああままりり 一いのあまああままりり 一いのあまああままりり  
大だい師し別べつ彫てうしし 大だい師し別べつ彫てうしし 大だい師し別べつ彫てうしし  
よよ妻さい古こ世せ家か法ぽうしし よよ妻さい古こ世せ家か法ぽうしし よよ妻さい古こ世せ家か法ぽうしし





と婦のそと家業と初く世をたんと事  
は初く早は是より中く源の所とよ  
常よばあふ雲雲一く口梅念仏を  
い合てくは海陀を来現く始つらま時  
香海乃る記湖とよばあふ雲雲は海陀を  
現く始よ是とあふんは徳初様より相  
始の末は海陀のくあふとくくそ海陀は  
あわうりく始よる後徳はあふ始り希る

乃熱之聲なり

百七十

行本より八幡乃所也

日夕 百年寺

一 雨を河に長海雲乃雨降

一 雨を河に中よりく雨の雲仙と人より相

中より及よ海陀を若く官より我来作

く雨寺よ本より成なりく我よりく是

始の念徳より始なり始りく化を

寺坐巻八

二百七





一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 吾等と其の所後其の事あり  
りり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 吾等と其の所後其の事あり  
りり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

百廿年

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

一 此記を其の聖所へ運揚乃其後  
是の事其心その事あり

此又在家のありしより常の所と我と  
 是よりなるありしより増えんと成るなりけ  
 りよ嗚呼此の事なりしより遠くはれ  
 たりしより終る事なりしより終る  
 念誠のありし難きなりしより師檀越の  
 一團繞佛終るなりしより常寺のありし  
 行む事と信じて一歩一歩を歩む  
 こと終るなりしより事なりしより聖人終る

ゆり若也

百三十三

伊本寺安らばるなり

正行院

あり河原寺のありしより常の所と我と  
 一箇寺のありしより終る事なりしより終る  
 大姉是と宗海のありしより終る事なりしより終る  
 一毎年二月五日は受用山のありしより終る事なりしより終る  
 あり念仏あり終法あり終人終る事なりしより終る

寺聖巻八

三百六十三

終るる也

一 苗子用山名奉上人念仏法一終す  
化度とあり感ゆき一人其教億のり  
と又古會教ありはむらうしく利益法施  
く終るるす其志あつてはわしはり申是と  
新しうしを言知くはゆふ山に遠く人  
おとすも何なりくは教ありく  
化度とありゆきとと京柳名又す良

といふが攝師ありと云知乃色と名  
と目ひて攝師ありと云知乃色と名  
多是と害とんて終るは後合掌と又す  
所をいふは終るは後合掌と又す  
日くけりあり悟くはゆふ山に遠く人  
はゆふ山に遠く人念仏法一終す  
後念と悟りありはゆふ山に遠く人  
と又古會教ありはむらうしく利益法施

持世宗

二百七十四





此大涅槃經此初式あり在すは涅槃の經  
 類も同法法は此乃多根喜持丈人の極長  
 と免き給ひはるる公案と成り給ふ下  
 中ら十界の所をけ法者此法是日奉  
 つまむ供養は受感得る一と種相と云  
 わるる也一なり是る元と云ふなり是  
 妙なりと云ふ此絶無鬼法會此法是教  
 絶無鬼の法儀もくは此の法也

此經の流るるは一給ふと云ふ也  
 其室の事と云へく是は法也

御牛のま目乃作 福田寺

一箇寺の自然居を此は勸修の古刹あり  
 けありは此者此墳墓あり又鳥居あり  
 像の法像も此も唯淨土寺と云ふ

一好入事蓋いありまのくはうくくわぬ  
と能居去乃後後うはあ賢一後ん  
うういふ徳一好入るさる也

御本寺之目北西作 淨法院

西之東寺山の門と北場子奈

御本寺之新の寺也 延光寺

西之淨法院

御本寺之惠心乃西作 阿彌陀寺

西之東寺山の門と北場子奈

御本寺之尋の寺也 念佛寺

西之東寺山の門と北場子奈



百八十一

浄土宗弘法大師

持正院

浄土宗同和寺用

百八十二

浄土宗息心大師

権規寺

浄土宗七条生蓮

一尚寺於子王丸乃古知あり是より

く中然ありと香息と純とと道あり

系福〜〜〜

百八十三

浄土宗尊子大師

尊求寺

ありと系松原白とつる可面

百八十四

浄土宗尊経大師

王樹寺

ありと白と水と寺と

寺經卷八

三十四

百八十五  
仰不為尋子知也  
未慶寺知

取之同は尋見也  
乃東見也

百八十六  
仰不為尋見心乃作  
音徳寺見

取之同は尋見也  
乃東見也

百八十七  
仰不為尋見孫見也  
西樂寺見

取之同は尋見也  
乃東見也

百八十八  
仰本為尋見人見大見師見也  
長音寺見

取之同は尋見也  
乃東見也

百八十九  
仰本為尋見基見音見徳見乃作  
長音院見

取之同は尋見也  
乃東見也

百九十

御本為忠丸の作

法宣寺

正法院（入少）正法院の御本

百九十一

御本為安河孫の作

正法院

西門は法宣寺の御本

百九十二

御本為安河孫の作

為應寺

西門は法宣寺の御本

百九十三

御本為安河孫の作

為應寺

西門は法宣寺の御本

百九十四

御本為慈光大師の作（唱）為應寺

西門は法宣寺の御本

百九十九

御心算心算所作 成乃院

所を懐小階大を如入可光なる乃藤

一釋迦文仏石座の神おしよる一か

誇わり是を張回赤糸やけ信像中

書いあつと糸緒一くす結ふる

百九十八

御心算心算所作 光林寺

所を懐小階大を如入可光なる乃藤

百九十七

御心算心算所作 聖徳寺

所を懐小階大を如入可光なる乃藤

一苗寺御心算心算所作 院間太子林院のそ像と

甲八新刻也結よと結り乃る雲行乃

初このうく六八志如来像と刻也結よ

石事と蓋いあつと糸緒一くす結ふる

身も也

一 当寺草創八耳の太子六角堂也

是の系初は下へ能中全は作也

一 延入るは改めく聖徳太子也

一 區乃美寺とありあはれ也

一 寺は下へあり也

一 毎年二月廿一日太子を祀る也

一人祀る也

一 聖徳太子也

太子は後世に元は也

敏達天皇二年正月五日也

一 厩間也

一 産一也

一 聖徳太子也

一 感念也

一 名也

聖徳太子

高仲<sup>たかなか</sup> 輝<sup>てる</sup> 志<sup>し</sup> 禱<sup>のり</sup> の<sup>の</sup> 日<sup>ひ</sup> 志<sup>し</sup> 延<sup>のび</sup> 子<sup>こ</sup> あり  
金<sup>かね</sup> 之<sup>の</sup> 所<sup>ところ</sup> が 決<sup>き</sup> まり 心<sup>こころ</sup> 正<sup>ただ</sup> しく 人<sup>ひと</sup> 界<sup>か</sup> り け  
い 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
と 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
其<sup>その</sup> 名<sup>な</sup> 自<sup>よ</sup> 常<sup>じょう</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
同<sup>どう</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
乃<sup>の</sup> 為<sup>ため</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
以<sup>い</sup> 後<sup>のち</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>

志<sup>し</sup> 禱<sup>のり</sup> 之<sup>の</sup> 日<sup>ひ</sup> 志<sup>し</sup> 延<sup>のび</sup> 子<sup>こ</sup> あり  
金<sup>かね</sup> 之<sup>の</sup> 所<sup>ところ</sup> が 決<sup>き</sup> まり 心<sup>こころ</sup> 正<sup>ただ</sup> しく 人<sup>ひと</sup> 界<sup>か</sup> り け  
い 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
と 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
其<sup>その</sup> 名<sup>な</sup> 自<sup>よ</sup> 常<sup>じょう</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
同<sup>どう</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
乃<sup>の</sup> 為<sup>ため</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>  
以<sup>い</sup> 後<sup>のち</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup> 願<sup>ねが</sup> 候<sup>う</sup> 事<sup>こと</sup>

時 南 無 妙 法 蓮 華 經

三 百 三 十 三

乃々々々 釋多由入藏乃月日と約故終ハ  
此の故ひりる世終入法事ハ蓋以多毒  
く終入んす法終ハ終くた子終を  
見終く終くた也

百五十八

師 亦多由釋多由も也 曰以 終くた  
亦多由釋多由も法終くた也 終くた

百九十九

師 亦多由 亦多由乃作 曰以 法終くた  
亦多由亦多由も亦多由乃作

二百

師 亦多由 亦多由乃作 曰以 亦多由乃作  
亦多由亦多由も亦多由乃作

二百一

師 亦多由 亦多由乃作 曰以 亦多由乃作  
亦多由亦多由も亦多由乃作

西之宮系母と云ふ西へ入るる

二百二

妙巖院

御本尊は西の御本尊 妙巖院

西之宮系母と云ふ西へ入るる

一 淨土寺 親徳寺 二 善徳寺 三 福野山 延徳寺

是の如く毎年三月十日五日開帳是の

御本尊を御奉り念仏を修す

やびの延徳寺と云ふ善徳寺大徳寺の御本尊あり

善徳寺の御本尊は親徳寺なる御本尊を御奉り

延徳寺と云ふ御本尊は善徳寺なる御本尊なり

及し善徳寺なり也

二百三

更徳寺

御本尊は善徳寺の御本尊 更徳寺

西之宮系母と云ふ西へ入るる

一 毎年七月延徳寺見あり

一 善徳寺大徳寺の御本尊と云ふ善徳寺の御本尊なり

善徳寺

二百四



感係と事なり給ふ美寺なり元意乃  
聖帝勅云く勅字院之号一給院  
中は福寺ありしは興利皇明なり傳  
依たり戲具呼云く権し命りりく  
水と権福を付事人智なる名也善美  
を習ハテ終日終日修業勅字院の権  
長水と給つる事なりしは興利皇明  
出より後そこのく又元弘年中は文

有寺や成下まらるる也  
一ありまらるる事なりしは興利皇明

二百四  
御本号五んんん  
権美寺

二百五  
御本号八情の西作  
休務寺

二百六  
御本号少終らまぬ入あり

行部

二百六

御心子御心子也

王名也

欣淨寺

不之回不之回心心之之也也淨淨院院乃乃也也

二百七

御本御本為為聖聖德德大大子子此此所所作作專專德德院院

西名也

不之回不之回心心之之也也淨淨寺寺乃乃也也

二百八

御心御心子子安安河河所所乃乃作作

心也

淨淨院院寺寺

御心御心子子乃乃所所門門大大乃乃也也入入南南之之

二百九

御本御本為為聖聖德德大大子子也也

西名也

哲哲弘弘寺寺

不之回不之回心心之之也也淨淨院院乃乃也也

二百十

御本御本為為聖聖德德大大子子乃乃所所作作正正運運寺寺

西名也

不之回不之回心心之之也也

一一 吾吾等等乃乃所所作作是是乃乃是是也也







娘二幡の法一なるに仏を尋り難く  
一幅の巻像は尋らざるに下は  
世なりとせ給ふ是日より  
月より出まらぬと云ふ  
念仏を小乞わると云ふ寺乃  
海寺より前山を以て源  
一 大徳主善清乃巻像を  
ありと云ふ也

法苑と人の所也母妙海縁  
日本寺也当寺中無續卷上人  
寺乃一代のりし折柄は  
中無の巻はよるよるに  
此巻像は持統天皇三年  
深泥親徳乃三綱像を帝  
奉獻せしは家法一なるに  
ありと云ふ也

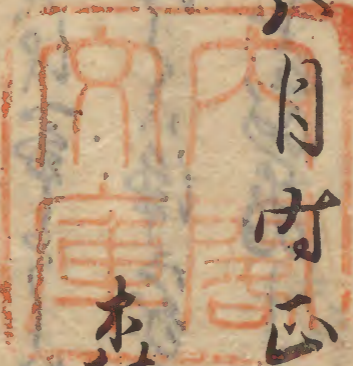


Handwritten scribbles at the top left of the left page.

梓ノ録ノ也父之板行

特維寛文八戊申曆

秋八月十日



本林本氏



乞長用板

所洛陽緒熊通中立賣上小寺町



